

コロナ禍の逆境をチャンスに変えた海外展開 地域の伝統を全世界に向けて発信

山形県西村山郡に拠点を構える同社は、耐久性や快適性、デザイン性に優れたスリッパ等の室内向け履物を製造している。他を圧倒する高級感と高品質は高級ホテルや旅館からも高く評価、使用されており、2018年には「ABE HOME SHOES」ブランドを立ち上げ、全国のセレクトショップや百貨店への展開に加えてECサイトでも販売を開始した。2020年には、コロナ禍におけるルームシューズ需要の高まりを受け、海外への直接販売にも挑戦している。

所在地 山形県西村山郡河北町谷地中央3-3-2

電話/FAX 0237-73-2141 / 0237-73-2110

URL <http://www.abesangyo.jp/wp/>

代表者 代表取締役社長 阿部 弘俊

設立 1919年

資本金 3,000万円

従業員数 24人



コロナ禍で海外から着目されはじめたルームシューズの価値

同社では、以前より自社商品のブランド化、山形県の主催するデザイン塾への参加、一般社団法人山形県国際経済振興機構との連携等、海外展開に向けた準備を進めてきた。昨今の新型コロナウイルスの流行を受けて靴を履いて室内で過ごす習慣のあるアメリカでは、室内へのウイルス流入防止策としてルームシューズのニーズがあると考え、洗濯機で丸洗いできる丈夫な作りが特徴の「帆布・バブーシュ」を7月から輸出開始したところ大変、好評であった。現在はアメリカだけでなく、イスラエル、香港といった国や地域へも出荷しているほか、オーストラリア、台湾への輸出も決まっている。



帆布・バブーシュ

県内の資源と伝統を生かした独自の商品開発・製造プロセス

明治時代の草履作り以来、スリッパ生産高で全国一を誇る河北町は、職人や工場の集積地でもあり、同社では、地場産業になじみのある職人を多数雇用しながら丁寧な製品づくりに活用している。また、工業技術センターとの共同研究を通じ、同じ山形県の地場産品である「米沢織り」から作られる丈夫な「袴地」とのコラボレーション商品である「HAKAMA JITATE」や「KINUHAKI」を開発したところグッドデザイン賞を受賞するなど、ヒト・モノ両面の地域資源を活用した経済活性化に貢献している。



KINUHAKI

地域間連携と環境対応で実現する高付加価値化とブランド強化

県内事業者との連携にとどまらず、木綿や皮革、和紙など全国各地の特産品を組み入れたコラボレーション商品も開発。お互いの伝統に裏打ちされた高い品質と知名度を生かしてブランド力を高めながら幅広い層に向けた販路拡大に挑戦している。海外向けの高単価商品はソール部分を環境負荷の低い人工皮革に変更し、焼却処分した際の有害物質を軽減。ターゲットとする富裕層の環境保護意識に訴えかける工夫も加えることで、一層の高付加価値なモノづくりに取り組んでいる。



縫製の様子